

水沢高が団体優秀賞

五七五の青春輝く



団体優秀賞を受賞した（前列左から）菊地真帆さん、阿部なつみさん、小野寺羽奈さん（後列同）鈴木綾乃さん、桜田樹里さん、引地佳歩さん、及川華凜さん

神奈川大が主催する第25回全国高校生俳句大賞で、水沢高（菅野誠二校長、生徒688人）の文芸・短詩部が4年連続の団体優秀賞に輝いた。個人でも入選し、培ってきた力を発揮。部員らは「歴史を途切れさせることなく、団体賞を頂きたい」と喜び、新たな伝統を築こうと日々の活動に力を入れている。

前部長の阿部なつみさん、小野寺羽奈さん、菊地真帆さん（3年）、部長の桜田樹里さん、鈴木綾乃さん（2年）、及川華凜さん、引地佳歩さん（1年）の7人の作品が選者賞（5作品）や入選に選ばれた。団体優秀賞は優れた作品が多い学校に贈られ、同校を含む3校が選ばれた。

テーマは食べ物や恋などさまざま。旅を詠んだ3句一組で入選した小野寺さんは「区切りの大会だったので力を出し切りたかった」と振り返る。新設の選者賞に選ば

全国高校生俳句大賞

4年連続「うれしい」

れた鈴木さんは「先輩が結果を残しているので途切れさせず、もっと良い結果を残せるように頑張りたい」と力を込めた。同部は俳句を詠むだけでなく、作品鑑賞会も開催。意見を交わすことでスキルを高めてきた。それぞれが個性を生かした作句につなげ、菊地さんは「自分が感じたことを素直に表現する」と意識。及川さんは「他の人と同じ見方にならないように多角的に見る」と向き合う。

友人から聞いた話や実体験などを基に、恋の切なさを詠んできた阿部さんは「うまく作れない時は焦らず、じっくり考えて頑張りたい」と後輩にエールを送る。引地さんは「3年生に今まで触れたことがなかった俳句を気さくに楽しく教えてもらった。教わったことを忘れず部に貢献したい」と誓う。

第25回の同大賞には、全国237校から1万3633通（3句一組）の応募があった。県内では、花巻北高2年の千田大和さんも入選した。

（鈴木広野）

◆主な受賞句

- ▽失恋や残暑まとわりつく背中
（阿部なつみ）
- ▽夕虹や瀬戸の匂いの旅靴
（小野寺羽奈）
- ▽大西日古本に煙草のにおい
（菊地真帆）
- ▽風光る団地の廃墟の壁に苔
（桜田樹里）
- ▽二月や母のルーージュをつけてみる
（鈴木綾乃）
- ▽凍星や救急車の音止む我家
（及川華凜）
- ▽沈黙や祖母と実梅のへたを取る
（引地佳歩）